小児看護学実習　ルーブリック

項目	到達目標	A	B	C	D
子どもの理解	子どもの身体的・精神的・社会的特徴を捉え、個別性のあるかかわりについて説明することができる。	情報収集・子どもとの関わりを通して、発達理論の活用もしながら、子どもの身体的・精神的・社会的特徴を捉え、個別性のある関わりについて具体的に説明することができた。	情報収集・子どもとの関わりを通して、子どもの身体的・精神的・社会的特徴を捉え、個別性のある関わりについて説明することができた。	教員や指導者の助言によって、情報収集・子どもとの関わりを通して、子どもの身体的・精神的・社会的特徴を捉え、個別性のある関わりについて説明するが不十分であった。	子どもの身体的・精神的・社会的特徴を捉え、説明することができなかった。
	基本的生活習慣の自立の程度と獲得を促す技術を理解し、説明することができる。	子どもの個別性や健康問題を考えたうえで、子どもとの関わりを通して、発達理論の活用もしながら、基本的生活習慣の自立の程度と獲得を促す関わりについて具体的に説明することができた。	子どもとの関わりを通して、基本的生活習慣の自立の程度と獲得を促す関わりについて具体的に説明することができた。	教員や指導者の助言によって、子どもとの関わりを通して、基本的生活習慣の自立の程度と獲得を促す関わりについて説明するが不十分であった。	基本的生活習慣の自立の程度と獲得を促す技術を理解し、説明することができなかった。
	子どもが成長発達する環境について考察し、説明することができる。	子どもとの関わりを通して、子どもが成長発達する環境について、子ども個々の成長発達を考慮したうえで考え、具体的に説明することができた。	子どもとの関わりを通して、子どもが成長発達する環境について説明することができた。	教員や指導者の助言によって、子どもとの関わりを通して、子どもが成長発達する環境について説明するが不十分であった。	子どもが成長発達する環境について考察し、説明することができなかった。
	成長発達に応じた遊びの援助ができる。	情報収集・子どもとの関わりを通して、発達理論の活用もしながら、子どもの成長発達に合わせた遊びの援助を、具体的に立案し、実施、子どもの反応に合わせて関わりを修正することができた。	情報収集・子どもとの関わりを通して、子どもの成長発達に合わせた遊びの援助を立案し、実施することができた。	教員や指導者の助言によって、情報収集・子どもとの関わりを通して、子どもの成長発達に合わせた遊びの援助を、具体的に立案、実施したが不十分であった。	成長発達に応じた遊びの援助ができなかった。
信頼関係の形成	子どもを一人の人として尊重し、子どもの権利を擁護する姿勢で関わることができる。	子どもとの関わりの中で、子どもの成長発達に合わせた意思決定やプライバシーの保護、学習の継続など子どもの権利擁護が行えるような支援を考え、実施、子どもの反応に合わせて関わりを修正することができた。	子どもとの関わりの中で、子どもの成長発達に合わせた意思決定やプライバシーの保護、学習の継続など子どもの権利擁護が行えるような支援を考え、実施することができた。	教員や指導者の助言によって、子どもとの関わりの中で、子どもの成長発達に合わせた意思決定やプライバシーの保護、学習の継続など子どもの権利擁護が行えるような支援を考え、実施したが不十分であった。	子どもを一人の人として尊重し、子どもの権利を擁護する姿勢で関わることができなかった。
	子どもとその家族に応じたコミュニケーションをとることができる。	子どもの個別性や成長発達・健康問題、家族の思いをアセスメントしたうえで、子どもとその家族に応じたコミュニケーションを考え、関わりの場面に合わせて実施、子どもと家族の反応に合わせて関わりを修正することができた。	子どものや家族の状況からアセスメントを行い、子どもとその家族に応じたコミュニケーションを考え、実施することができた。	教員や指導者の助言によって、子どもとその家族に応じたコミュニケーションを考え、実施したが不十分であった。	子どもとその家族に応じたコミュニケーションをとることができなかった。
	看護の概念モデルの枠組みを用いて情報を収集・分類し、整理できる。	ゴードンの11項目を用いて、情報を収集・分類し、子どもと家族の状況に合わせて整理できた。	ゴードンの11項目を用いて、情報を収集・分類し、整理した。	教員や指導者の助言によって、ゴードンの11項目を用いて、情報を収集・分類し整理したが、不十分だった。	ゴードンの11項目を用いて、情報を収集・分類し、整理できなかった。
	情報を根拠に基づいて分析できる。	収集・分類・整理した情報について、科学的根拠や発達理論を用い、アセスメントできた。	収集・分類・整理した情報について、科学的根拠を用いアセスメントした。	教員や指導者の助言によって、収集・分類・整理した情報について、アセスメントしたが不十分であった。	情報を根拠に基づいて分析できなかった。
	子どもと家族のニードと看護上の問題を明確にすることができる。	アセスメントを踏まえて、子どもと家族の状況にあった適切なニードと看護上の問題を導き出すことができた。	子どもと家族の状況にあったニードと看護上の問題を導き出すことができたが、一部教員や指導者の修正があった。	子どもと家族の状況にあったニードと看護上の問題を導き出したが、教員や指導者の修正が多かった。	子どもと家族のニードと看護上の問題を明確にできなかった。
	健康レベルと成長発達に応じた看護目標が設定できる。	導き出した看護上の問題について、健康レベルと成長発達に応じた看護目標を設定し、それは到達可能なものであった。	導き出した看護上の問題について看護目標を設定し、それはおおむね到達可能なものであった。	導き出した看護上の問題について看護目標を設定したが、健康レベルと成長発達に応じたものとしては不十分だった。	健康レベルと成長発達に応じた看護目標が設定できなかった。
	子どもとその家族について、個別的で具体的な計画が立案できる。	看護計画は、疾患のみでなく、子どもや家族の個別性や発達段階を加味しており、具体的であった	看護計画は、おおむね疾患のみでなく、子どもや家族の個別性や発達段階を加味していた。	看護計画は、一般的であり、子どもや家族の個別性や発達段階を加味することが不充分であった。	子どもとその家族について、個別的で具体的な計画が立案できなかった。

アセスメント・計画立案・実施・評価	安全・安楽を考慮したケアが実施できる。	子どもの個別性や成長発達・健康問題を踏まえて、安全・安楽を考慮した具体的なケアを実施できた。	子どもの個別性や成長発達・健康問題を踏まえて、安全・安楽を考慮したケアを立案したが、一部教員や指導者の修正をうけ実施できた。	子どもの個別性や成長発達・健康問題を踏まえて、安全・安楽を考慮したケアを立案したが、実施までに教員や指導者の修正が多かった。	安全・安楽を考慮したケアが実施できず、教員や指導者への報告も不十分で、そのことがアクシデントあるいはインシデントにつながった。
	子どもとその家族に応じたケアが実施できる。	子どもの個別性や成長発達・健康問題、家族の状況を踏まえて、子どもとその家族に応じた具体的なケアが実施できた。	子どもの個別性や成長発達・健康問題、家族の状況を踏まえて、子どもとその家族に応じたケアがおおむね実施できた。	教員や指導者の助言によって、子どもとその家族に応じたケアを行ったが不十分であった。	子どもとその家族に応じたケアが実施できなかった。
	子どもや家族の反応をとらえながらケアが実施できる。	子どもや家族の反応に応じてケアが実践ができた。	教員や指導者の助言によって、子どもや家族の反応に応じてケアの工夫を考えることができた。	教員や指導者の助言によって、子どもや家族の反応をとらえながらケアが実施したが不十分であった。	子どもや家族の反応をとらえながらケアが実施できなかった。
	実施した看護を根拠に基づいて評価できる。	評価基準に基づき、SOAPなどを活用して、看護計画に沿った看護実践や設定した目標についての評価ができた。	評価基準に基づき、SOAPなどを活用して、看護計画に沿った看護実践や設定した目標についての評価を行ったが、一部教員や指導者の修正があった。	評価基準に基づき、SOAPなどを活用して、看護計画に沿った看護実践や設定した目標についての評価を行ったが、教員や指導者の修正が多かった。	実施した看護を根拠に基づいて評価できなかった。
	評価の結果に基づいて、計画を修正することができる。	評価の結果に基づいて、子どもの個別性や成長発達・健康問題、家族の状況を踏まえて、計画を修正することができた。	評価の結果に基づいて、計画を修正したが、一部教員や指導者の修正があった。	評価の結果に基づいて、計画を修正したが、教員や指導者の修正が多かった。	評価の結果に基づいて、計画を修正することができなかった。
社会資源・継続看護・他職種連携	社会資源の活用について考察し、説明することができる。	子どもと家族との関わりを通して、必要な社会資源の活用について具体的に考察し、説明することができた。	子どもと家族との関わりを通して、必要な社会資源の活用についておおむね考察し、説明することができた。	子どもと家族との関わりを通して、必要な社会資源の活用について考察したが、不十分であった。	社会資源の活用について考察し、説明することができなかった。
	継続看護について考察し、説明することができる。	子どもと家族との関わりを通して、退院支援や継続看護について具体的に考察し、レポートやカンファレンスの中で説明することができた。	子どもと家族との関わりを通して、退院支援や継続看護についておおむね考察し、説明することができた。	退院支援や継続看護について考察したが、不十分であった。	継続看護について考察し、説明することができなかった。
	他職種との連携を通して、看護職の役割について理解し、説明することができる。	実習中に経験した他職種との連携を通して、看護職の役割について理解し、レポートやカンファレンスの中で具体的に説明することができた。	実習中に経験した他職種との連携を通して、看護職の役割についておおむね理解し、説明することができた。	他職種との連携についてはおおむね理解できたが、看護職の役割については理解が不十分であった。	他職種との連携を通して、看護職の役割について理解し、説明することができなかった。
実習態度	積極的な挨拶や適切な言葉使い，身なり，態度で実習することができる	挨拶、身なり、時間を守ることや学生間の役割を担うなど、社会人として常識ある行動がとれた。	挨拶、身なり、時間を守ることや学生間の役割を担うなど、社会人として常識ある行動がおおむねとれた。	挨拶、身なり、時間を守ることや学生間の役割を担うなど、社会人として常識ある行動について、注意を受けることがあったが，その後は注意されることがなくなった。	挨拶、身なり、時間を守ることや学生間の役割を担うなど、社会人として常識ある行動について、注意されることが続いた。
	カンファレンス等において、積極的に参加できる。	カンファレンス等において、テーマに沿った意見交換や議論を活発に行うことができ、結果あるいは結論を指導者の助言を得ながら導き出すことができた。	カンファレンス等において、テーマに沿った意見交換や議論を行うことができ、結果あるいは結論を指導者の助言を得ながら導き出すことがおおむねできた。	カンファレンス等において、テーマに沿って発言はあるが議論にはならず、学生なりの結果や結論を導き出すにいたらなかった。	カンファレンス等において、テーマに沿って意見を発言するだけに終わった。
	主体的に学習に取り組める。	実習中、主体的に学習に取り組むことができた。	実習中、主体的に学習に取り組むことがおおむねできた。	実習中、主体的に学習に取り組むことがあまりできなかった。	実習中、主体的に学習に取り組むことができなかった。